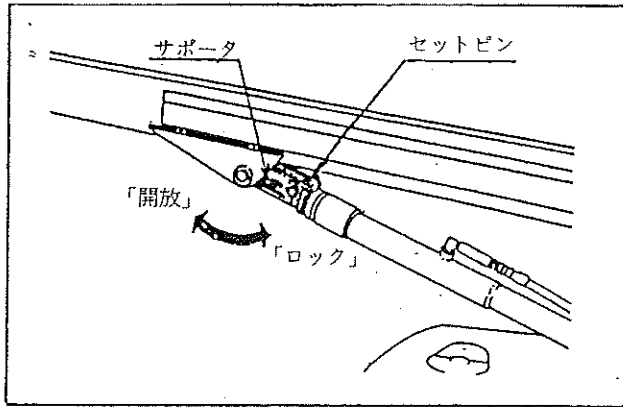


ブームシリンダ落下防止装置

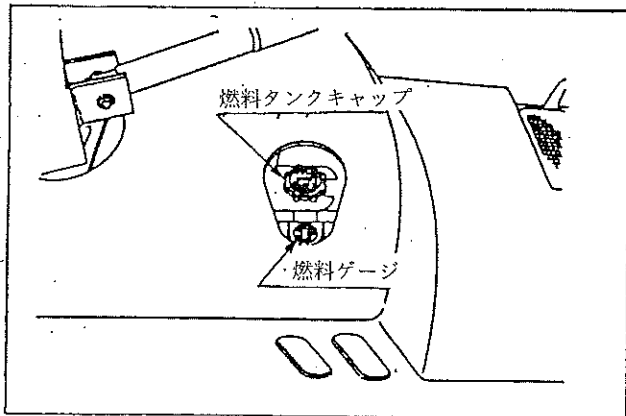
車体点検時、ブームを上昇させて車体カバを外した場合、シリンダに必ず落下防止サポータをかましてください。



燃料について

燃料の給油

始動前には、必ず燃料が十分入っているかどうか点検してください。不足の場合はキャップを外して、燃料を補給してください。



燃料の種類	容量
レギュラガソリン (無鉛)	3.6ℓ

安全ポイント

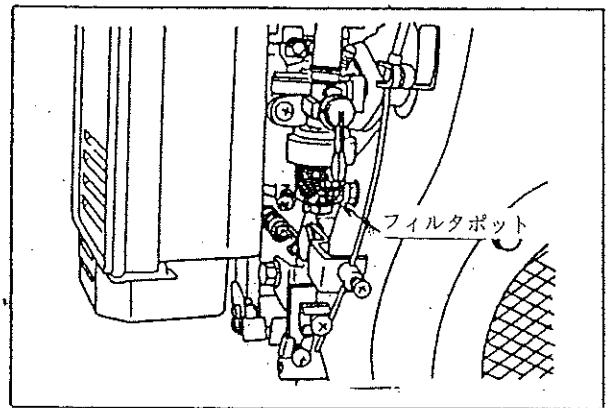
- 給油中はエンジン停止・火気厳禁

注意

- 燃料の給油は必ず漉し網を用い、ゴミや水が混入しないようにしてください。
- 燃料タンクキャップが締まっているか確認してください。
- こぼれた燃料は、完全に拭きとってください。
- 機体を水平にして給油してください。

燃料フィルターの掃除

- (1) 燃料フィルターは、燃料のゴミを取除きます。ゴミはカップの底にたまりま。
- (2) フィルタポットを外し、カップの底にたまったゴミや水を捨ててください。

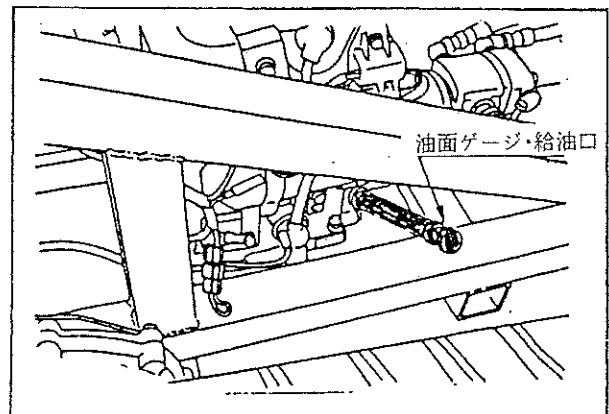


注意

- フィルタポットの取付けは、ガソリン洩れのないよう、しっかり締め付けてください。

各部の給油・点検とオイル交換

エンジンオイル



オイルの種類	オイル
夏期 (15℃以上)	API/SE#30
冬期 (15℃未満)	#20W20

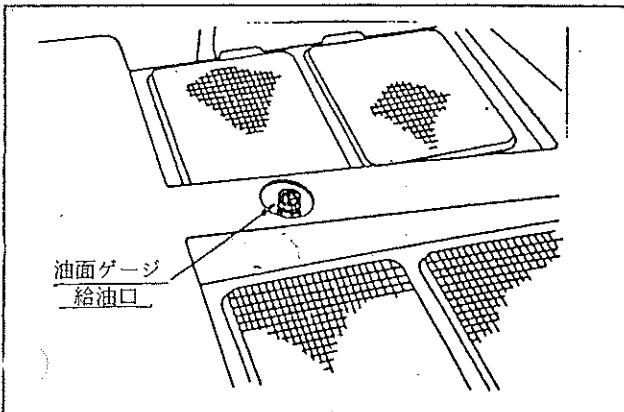
●エンジンオイル規定量……………0.6ℓ

- (1)エンジンオイルが規定量入っているか点検してください。
- (2)オイル量がゲージの上下線の間であれば正常です。不足なら補給してください。

注意

●エンジン停止直後では、各部にオイルが
 残っていますので正確なオイル量が測れ
 ません。少なくとも停止後5分以上たっ
 てから、機体を水平にして点検してくだ
 さい。

油圧作動油



オイルの種類	ISO VG#32
--------	-----------

- (1)車体を水平にし、ブームを中央、下端
 において油量を点検してください。
- (2)作動油が不足していれば、給油口より補
 給してください。
- (3)作動油に水などが混入して、全量交換が
 必要なときは、タンクを本機から取りは
 ずし、全量排出して内部をよく洗浄した
 後、給油口より規定量を注入してくださ
 さい。

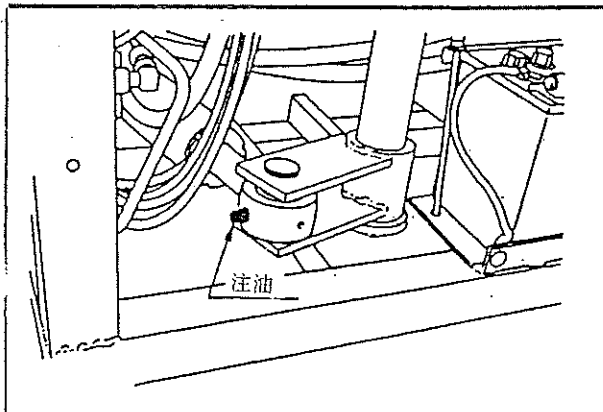
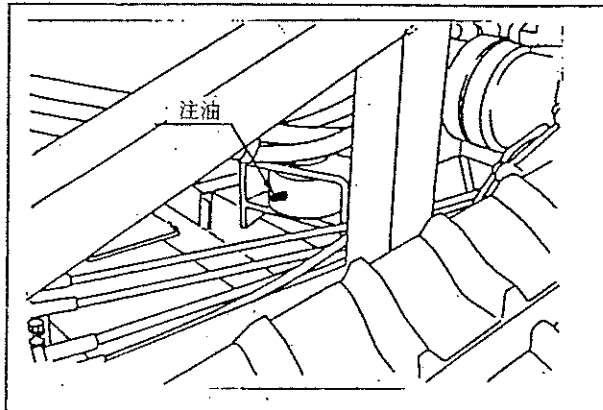
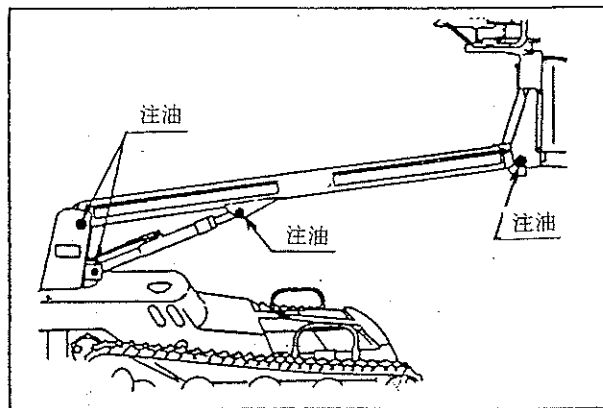
●作動油規定量……………約20ℓ

注意

- 給油時には、異物が混入しないよう付近
 の砂やゴミをよくふきとり、十分注意し
 てください。
- 補給する場合は、必ず同一銘柄の作動油
 を使用し、絶対に他銘柄と混合しないで
 ください。

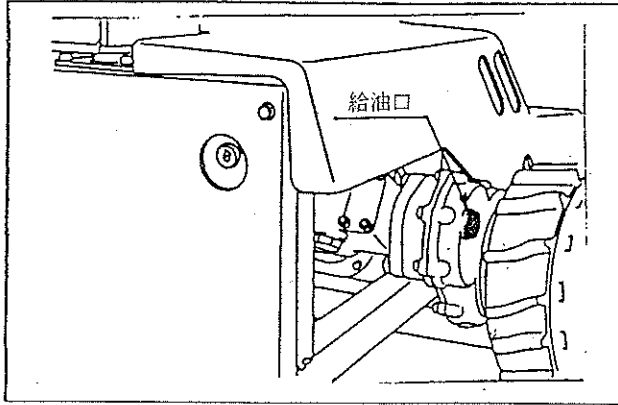
各ジョイントピン部の給脂

オイルの種類	リチウム極圧系 万能グリース
--------	-------------------



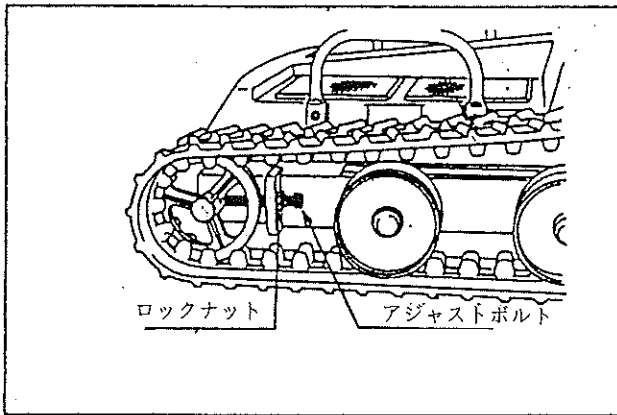
ギヤケースオイル

オイルの種類	API/GL-5 #80
--------	-----------------



● 規定量.....約0.3ℓ

クローラの調節



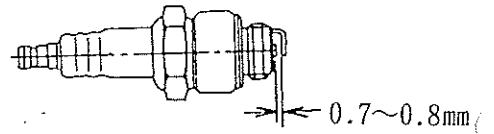
ロックナットを弛め、アジャストボルトを締込んでクローラを張ります。

注意

- クローラの張りは、左右均等になるようにしてください。
- 調節後、ロックナットを必ず締付けてください。
- クローラの張り具合は、上面、中央部を軽く手で押して、10～20mm位へこむのが最も良い状態です。

点火プラグの調節

- (1) プラグ用ボックススパナでプラグを外し、付着カーボンをワイヤブラシで清掃してください。
- (2) 電極間隔を0.7～0.8mmに調節してください。
- (3) 調節間隔は、6ヶ月に1回くらいが目安になります。



エアクリーナの掃除

- (1) ダストカップにたまったゴミを捨て、内部をきれいにふいてください。
- (2) エアクリーナエレメントは、軽くたたきながらゴミを落すか、圧縮空気を吹付けてください。
カーボンや油分が多く付着しているときは、灯油で汚れを落とし、乾燥させてからエンジンオイルに浸し、強く絞ってから取付けてください。
- (3) エレメントの洗浄は、半年に一回くらいを目安に行なってください。

